

第3回グリーンLPガス推進官民検討会の整理

第3回官民検討会議論の前提（橋川座長、定光部長）

- ・第二回の技術の棚卸に続き、今回は2050年に向けた**トランジション期間の行動**を詰める。
- ・グリーンLPガスの課題は**流通方法の確立、コスト低減、安定的な製造・供給**。
- ・社会実装にはグリーンLPガスの**品質、認証、安全性の確立**が前提。
- ・トランジション対応には、**オフセット・クレジット**を活用したクリーンなLPガスを普及させること、**高効率給湯器等省エネ型LPガス燃焼機器の普及**も課題。
- ・政府は3月にGX基本方針を出し、**20兆円のGX移行債**により、先行投資を促しており、LPガス産業にも期待が高い。



今後の官民検討会での議論について

技術開発状況の進捗確認

毎年第二回目（11月）に進捗確認する。
新規プロジェクトがあれば、追加報告する。事務局より北九州市での動向を報告。

GX移行債を利用した事業化の検討

3月に発表されたばかりであり、第4回官民検討会にて概要を経済産業省から説明を行う。（仮題）e-Fuel、他燃料の動向

WG、SWGでの検討内容のフィードバック

官民検討会傘下にWG、SWGを設置し、議論・進捗状況を官民検討会に適宜フィードバックする。

LPガス需要の維持及び広報活動

広範な議論を促進し、消費者の方々の理解を得るため、第4回官民検討会よりマスコミ、消費者団体にも会議に参加をいただく。



第4回官民検討会には、一般紙・LPガス業界紙がWEB参加、消費者3団体には実地出席を依頼

全国女性団体連絡協議会（全女会）、主婦連合会（主婦連）、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）

その他の検討

海外での展開等、今後継続的なテーマとして検討を進める。

グリーンLPガスの社会実装に向けての課題について

① トランジション期間の低炭素化のための省エネ高効率機器の普及

- ・本日のテーマ「補助金利用による高効率機器導入／普及促進のための施策（トランジション会議によるリーフレット作成）」にて説明。
- ・現在もLPガス業界団体で構成する「トランジション会議」で議論を継続。

② CNLPG活用に向けたLPガス業界の方向性

- ・本日の官民検討会にて、サイサンより「CNLPG導入の推進について」のテーマでプレゼン。
- ・本日、CNLPGを使った新たな試みとして、千葉県いすみ市より「トランジション期間におけるLPガスマイクログリッドの導入」のテーマでプレゼン。

③ グリーンLPガスの認証の仕組み作り

- ・6 / 2 8 日本LPガス協会の「CN-LPGを巡るWG」が開催。
- ・業界内でガイドラインを作成することで概ね同意。
- ・本日、テーマ「CNLPG導入状況について」で、現況の導入状況を報告。
- ・日本LPガス協会のWGでの更に以下の議論を継続する必要がある。

1) 名称をどうするか？ 2) 定義をどうするか？ 3) 適用範囲をどうするか？ 4) クレジット調達先は？
5) トレーサビリティ（クレジットの償却）をどうするか？ 6) 第三者による検証を行うか？ 7) その他（スケジュール等）

④ グリーンLPガスの品質基準作り

- ・1 1月の第5回官民検討会の技術進捗報告を待ち、検討を継続。

⑤ グリーンLPガス製造技術の海外展開

- ・政府のGX移行債の動向も踏まえた上で、検討を継続。
- ・本年3月の世界LPガス協会の東京会議及びエルピーガス振興センター主催の国際セミナーにおける海外情報を本日の検討会で報告

第3回官民検討会での委員ご意見

（関根委員：早稲田大学）

- ・灯油はFT合成では作れず、作れてもSAF／e-Fuel側にとられる。日本全体の家庭LPガスの熱量0.2EJと等量の灯油をLPガスが代替するのは一つのビジョンである。
- ・オートガス、カセットガス、都市ガス熱調にもグリーンLPガスを使うことも重要であり、P／Bも適材適所で利用検討すべき。

（福嶋委員：古河電工）

- ・日本の技術、事業が勝ち残れる「国際標準」を日本が先に作るべきではないか。

（坂西委員：産総研）

- ・石炭や石油由来のCO₂を活用して、カーボンニュートラルLPガスを作った場合、カーボンオフセットになるのか？

（植村委員：野村総合研究所）

- ・排出側で既にオフセットされたCO₂を使うとカーボンニュートラルにはならない。
- ・CO₂をクローズドリサイクルで外に出さないか、廃棄物、バイオ由来であれば認められる。オリジンやリソースに依存する。

（橘川座長）

- ・ビジネスモデルが新しくなければGX移行債は取れない。トランジション期間の需要側からの工夫をコミュニティベースのものと合わせて作ると、新たなビジネスモデルが作れる。GX移行債のポイントはファーストムーバーを支援するということ。

（定光委員：経済産業省）

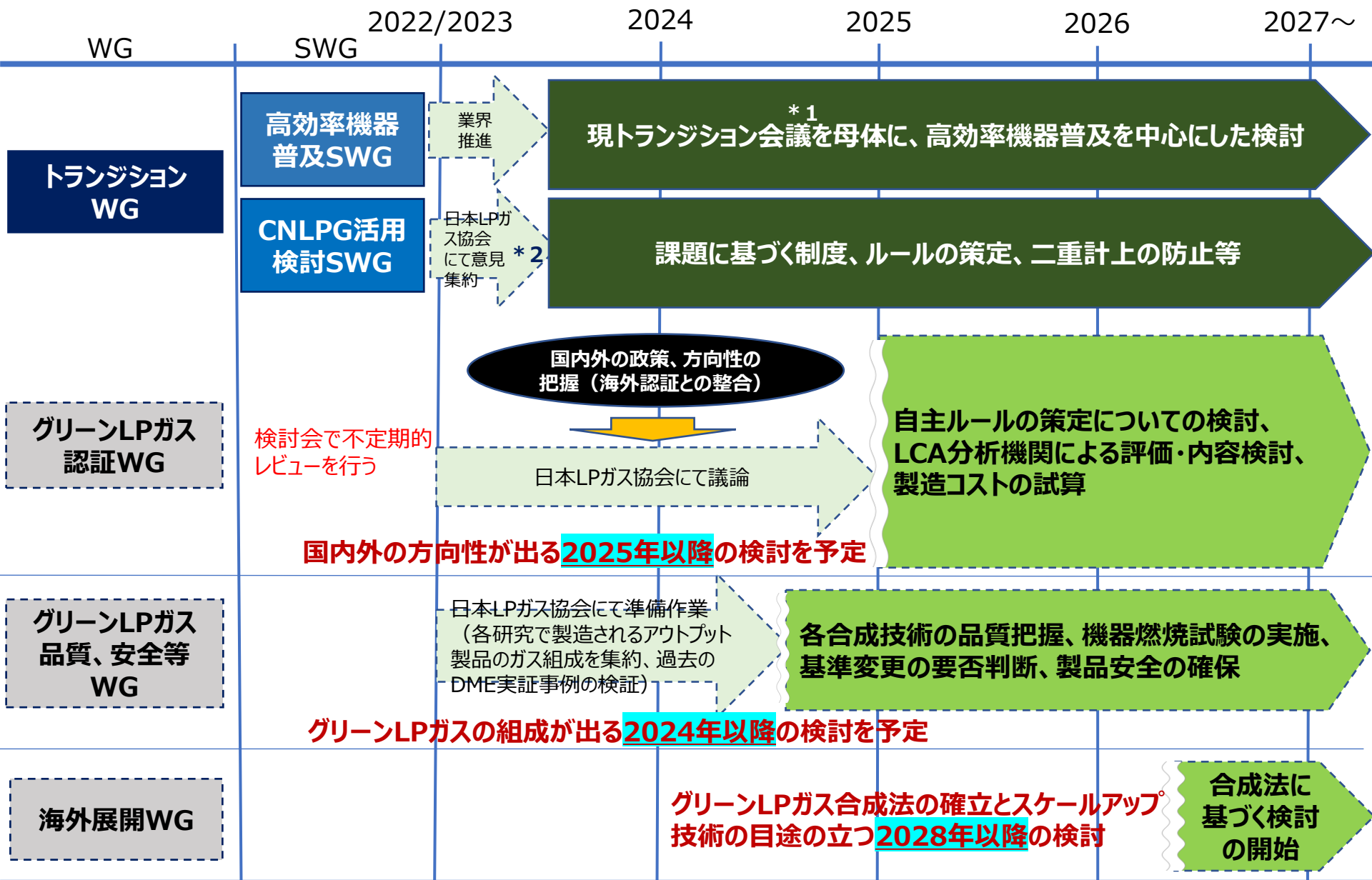
- ・電気や都市ガスは混ざってしまうため、CO₂削減価値の流れと物の流れを証書でやる方向で議論が進んでいるが、LPガスは分けることが出来ると思う。

（植村委員：野村総合研究所）

- ・分けられるがコストの問題がある。大規模化出来ない中で証書の部分を化石燃料にくっつけて売る「マスバランスアプローチ」がとれば、物理的な物流は不要で、コストは下がる。

（橘川座長）

- ・石油元売りはSAFに力を入れているが、一部元売りはナフサクラッカーをエタンクラッカーに変え、エタノールを取ろうとしている。
- ・そうなればC3移行が出てこなくなる。これは結構重要な問題である。



* 1 トランジション会議：トランジション期間の高効率機器普及促進を目的に、日本LPガス協会、全国LPガス協会、日本ガス石油機器工業会、日本ガス協会が現在自主的に運営している会議

* 2 CNLPGを巡る検討会：日本LPガス協会常任理事会社による、CNLPGの各社現状の取組みを共有し、内容を把握することを目的とした意見交換会であり、この会を通じ、CNLPGに関する課題を抽出することとなる。